

# Crew Voice

2017年4月19日 第10号

JR東海労・新幹線車内業務見直し反対プロジェクト

## 遺失物の取扱いでわかった会社の二枚舌！

今月の営業訓練で「遺失物の取扱いは、預かった者が責任を持って対応しなければならない。当該乗務員が処理するのが当たり前です」と営業助役から説明を受けました。これは過日発生した新大阪駅での遺失物取扱いについて「厳正な取扱いがなされていない」という注意喚起でした。しかし今後、会社は厳正な遺失物取扱いをするのでしょうか？過日「車内業務見直し」について幹鉄事との交渉で次のように会社は言っています。

### 【短区間巡回についての質問】

組合：遺失物で気になるのは、現金や落し物で仮に現金（財布等）を渡された場合、新横浜で降車しなければならない。その場合、どうするのか？お客様から渡された場合に本務車掌に引き継ぐのか？その場合の責任の所在はお金だから渡した方も問われるし渡された方も問われるわけです。どのように考えるのか？

会社：当然遺失物の対応は非常に重要だと思う。その判断は詳細の状況によって対応の違いが出てくると思っていますので、クルーの中で話をして指令と相談して対応していくようになる。詳細は提示できないんですが。今おっしゃった懸念は。

対応の違いが出てくる？とは訓練で言っていることと矛盾しませんか？「クルーの中で話をして指令と相談して・・・」とは車掌長に相談、指令に判断を仰ぐとかなるとかなりの時間を要します。ましてやお客様に再度説明をすることを考えた場合、新横浜下車までに完結するとは到底思えません。「詳細は提示できない」とはどういう事ですか？「当該乗務員が処理するのが当たり前です」とどうして言えないのですか？ケースバイケースで対応するというなら訓練での説明と違い、二枚舌（食い違うことを平気で言うこと。うそを言うこと）と言われても否定できないでしょう。車内で多く発生している事象は「切符がない」「忘れ物がありました」が圧倒的です。これでは会社が来年3月から始めようとしている短区間巡回そのものが思いつきであり、遺失物取扱い<sup>ひと</sup>一つについても想定していないと言ってもいいでしょう。この先、短区間巡回時の遺失物取扱いは特例を設けると説明しますか？厳正という言葉の重みを会社自身が軽く考えているといえるのです。私たちは業務に矛盾と戸惑いを生む車内業務見直しに反対します。